

国際的なアウトソーシングの経済効果

～先進国から発展途上国へのアウトソーシングは 先進国と発展途上国に利益をもたらすのか～

社会科学部 会計専門職専攻

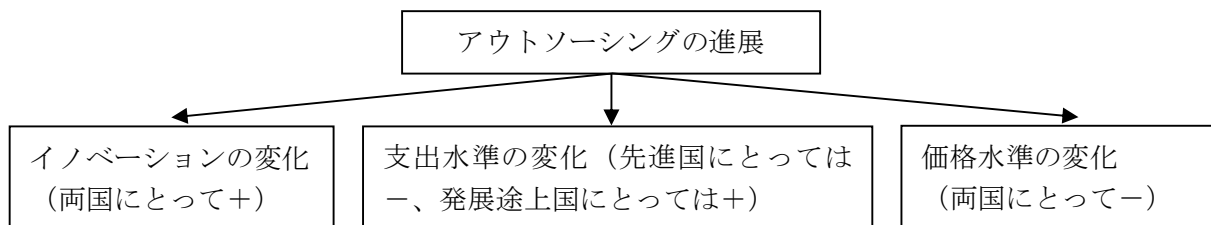
○准教授 しみず たかのり
清水 隆則

キーワード

プロダクト・サイクルモデル、アウトソーシング、イノベーション、
経済厚生

研究概要

本研究では、先進国から発展途上国への生産工程のアウトソーシングを考慮に入れたプロダクト・サイクルモデルを構築し、国際的なアウトソーシングの進展が先進国と発展途上国の経済厚生に与える効果を分析します。貿易コストの減少により、国際的なアウトソーシングの重要性は増加しています。先進国の労働者の立場から、アウトソーシングによって発展途上国に生産工程が移転すると、雇用が失われるか、賃金が下がるので、損害をもたらすように思われます。しかしながら、製品の改良をもたらすイノベーションが先進国で行われている場合、アウトソーシングによって節約された労働をイノベーション活動に投入できるため、イノベーションが促進されます。このような動学的な側面を考慮に入れた場合、先進国の経済厚生が改善する可能性が高まります。分析の結果、全ての資産を先進国が所有している場合は、アウトソーシングの増加により、発展途上国の経済厚生は必ず高まります。先進国の経済厚生は増加するか減少するかは確定できません。本研究は、JSPS 科研費 JP21K01445 の助成を受けたものです。



アピール ポイント

国際的なアウトソーシングの初期の研究は、静学的なモデルで分析されてきた。そのため、イノベーションの変化という動学的な側面は無視されてきた。動学的な側面を考慮に入れると、アウトソーシングの進展が先進国と発展途上国双方に利益をもたらす可能性が高まること示されました。また、動学的な側面を考慮に入れた研究においても、ほとんどがイノベーションや相対賃金の変化のみの分析に終始していましたが、本研究では、経済厚生の変化も分析しました。本研究成果は、以下の論文で公開されています。「国際的なアウトソーシングの経済厚生分析—品質上昇型プロダクト・サイクルモデルによる分析—」兵庫県立大学政策科学研究所 Discussion Paper No. 75 (兵庫県立大学学術情報レポジトリよりダウンロード可能)